



学校だより

令和8年度 7月号
横浜市立藤の木中学校
横浜市南区大岡四丁目44番1号
045-714-2817

「明らめる」ことから始まる挑戦

副校長 二瓶 武志

「諦め」の本来の意味について、丸井章夫さんは、著書『あきらめ上手になると悩みは消える』の中で、次のように述べています。

「あきらめ」という行為は、はるか昔から日本人にとって非常に前向きな言葉であるということです。「あきらめ」という言葉に「断念する、放棄する」といった意味がついたのは、歴史的にはごくごく最近の、明治期以降のことです。本来の意味はどうだったかということ、「あきらめ」は「諦め」ではなく「明らめ」、すなわち「ものごとを明らかにする」という意味で使われていました。ために万葉集をひもとけば、次のように記されています。

「秋の花種にあれど色ごとに見し明らむる今日の貴さ」

このように、じつに趣深い使われ方をしています。これは「種類ごとに異なる花の美しさに気づかされた、今日はよい日だなあ」といった意味あいの歌で、「見し明らむる」は読んで字のごとく（花々の美しさを）見て明らかにするという意味になっています。

この「明らめる」がなぜ「諦める」に転じていったかについては諸説ありますが、私はじつのところ「明らめ」と「諦め」は現代でもかなり近い言葉ではないかと考えています。なぜなら人がなにかを「諦める」ためには、その前段階で悩みの正体を「明らめる＝明らかにする」必要があるからです。いわば私たちは「明らめてから諦める」——「諦め」と「明らめ」はセットになっているのです。いずれにしても「諦め」が「明らめ」という美しい語源をもつ以上、かつての日本人が「諦め」をよい言葉、前向きな行為とみなしていたことは明白です。

昨年の全日本女子剣道選手権大会において、3度目の栄冠に輝いた神奈川県警術科特別訓練員の高橋萌子巡査部長の座右の銘は、「決断」だそうです。中学時代の恩師が、剣道の名門高校に進むために親元を離れる高橋さんに贈った言葉とのことです。高橋さんは、「何かをやると決めたら、何かを断ち切らなければならない。弱い気持ちや迷いを振り切り、一本を打ち込む剣道にも通じている」と話していました。

何かを成し遂げるためには、「明らかに見る」ことが必要です。夢を叶えるためには、どれだけ練習が必要なのか、どれだけ覚悟が求められるのか、そして何を優先し何を手放さなければならないのかを、しっかりと見極めなければなりません。

いよいよ夏休みが始まります。さまざまな計画を立てていることと思いますが、これから何かに挑戦しようとしている人にとって、この話が少しでも参考になれば嬉しいです。また、全国的に水難事故が増えています。交通事故やSNS上のトラブル、熱中症等にも十分注意し、健康管理にも気を配りながら充実した夏休みを過ごしてください。8月27日、皆さんの元気な姿に再び会えることを楽しみにしています。